

2018

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.51

ビットコインの時価総額一時2400億ドル (約27兆円)を超え、トヨタや米シティ抜く

年末からニューヨーク証券取引所では主要指数が最高値を超え、年が明けてからも金融市場の話題が豊富である。

中でもビットコインをはじめとする仮想通貨・暗号通貨の話題が連日のように各種ニュースを賑わせている。2017年12月7日の日経新聞ではビットコインの時価総額が「一時2400億ドル（約27兆円）」を超え、日本の上場企業で最大の時価総額を誇るトヨタ自動車の時価総額（約23兆円）を上回った。米取引所でのビットコイン先物の上場などで、機関投資家の資金が流入すると期待から価格が急上昇している」と報じている。

昨年一年間でも20～24倍へと高騰し、本年に入って、1ビットコインが180万円から100万円程度に暴落したという上下変動の激しさも話題となっている。

そもそもビットコインあるいは仮想通貨とは何者なのか？を語るには誌面に限られているため割愛させて頂くが、初心者のために誤解を恐れずに極めて割り切って説明すると「サイバー上の金」のような存在だと思うと分かりやすいかもしれない。

仮想通貨を誕生させた背景には「ブロックチェーン」という技術理論がある。一定のルールに基づいた長尺の英数記号が交じった文字列をIDとし同程度のパスワードで構成されるデータがビットコ

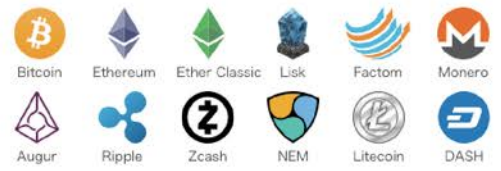
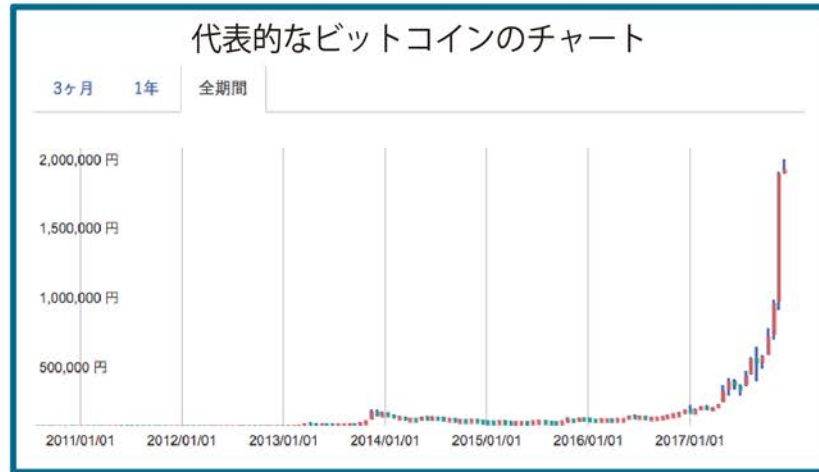
インの正体であり、発行件数の上限が設定されている。それを超高速のパソコンで大容量の電源を使用して採掘作業＝発見するという作業がされ発掘されている。まるで限定資産の金を掘り起こしているようなモノである。

さらに仮想通貨はビットコインだけではなく、イーサリアム、リップルなど多数の種類が存在し、国内でも主に14種類が取り扱われている。

これらの各種のビットコイン類を現金と交換している取引所が存在し、そこで株式や先物のような取引がされているのだ。

そしてつい最近問題となったのは、2018年1月26日に国内の大手取引所のコインチェックが、利用者から預かっている約580億円相当の仮想通貨「NEM」を外部からの不正アクセスによって失ったと発表した件である。その後、コインチェックは仮想通貨「NEM」を保有する約26万人全員に日本円で返金すると発表。被害額は580億円相当とされるが、相場下落により補償総額は約463億円になるとのこと。返金原資は同取引所の自己保有資金とされている。

また今回の被害の原因は「NEM」が定めた管理基準を満たさずオープンな環境のままインターネットに接続していた管理状態が指摘されている。同取引所に対して金融庁からは業務改善命令が出されている。



■参考資料
 日経新聞 ビットコインの時価総額、トヨタや米シティ抜く
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO24373250X01C17A2000000/>
 コインチェック、仮想通貨580億円消失のその後
http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/report/15/110879/012800779/?n_cid=nbpnbo_mlpnu
 ビットコイン・仮想通貨とは何か | 始め方や注意点、儲かるのかを初心者にもわかりやすく解説
<https://www.zerokarabitcoin.com/entry/bitcoin>
 ビットコインとは何か
http://www.huffingtonpost.jp/satoshi-nakajima/bit-coin-reality_a_23329943/
 今さら聞けないビットコインとは何か？仮想通貨ビットコインの特徴と仕組み
<https://money-lifehack.com/web/service/5884>



美楽からの一言

様々な評価がされている仮想通貨。デジタル時代の中で通貨自体が変貌していくことは間違いない事実である。

大事なことは、嫌悪感を持たずに技術的背景や事実関係を確認する作業ではないだろうか。

(この原稿は、1月末時点の数字を参考にしています)